

# 社会的共通資本としての公教育を支える ふれジョブ®

一般社団法人ふれジョブ 代表理事 西 幸代



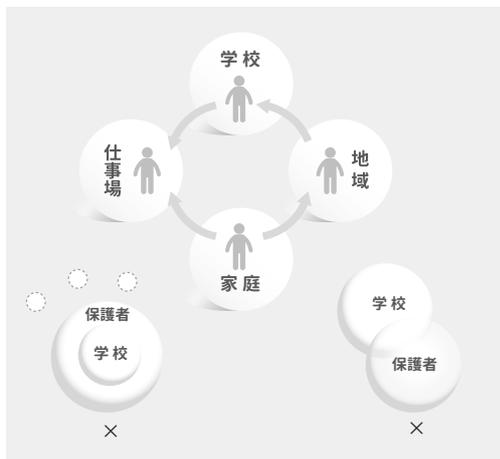
当法人は2019年設立、岡山県倉敷市と長野県小諸市に事務所を置き、2003年に開発したふれジョブ®の名前と方法の盗用誤用乱用を防ぎ、理念を継承する活動を中心に、新規の活動者も支援しております。

ふれジョブ®は小5からの思春期、巣立ちの準備を必要とする時期、親や学校から1時間離れ、暮らす地域の中に新しいつながりをつくり、未知の生き方や仕事に出会う仕掛けです。そのまま楽に息ができる1時間を、8年間かけて地域に生み出す、気の長い取り組みです。

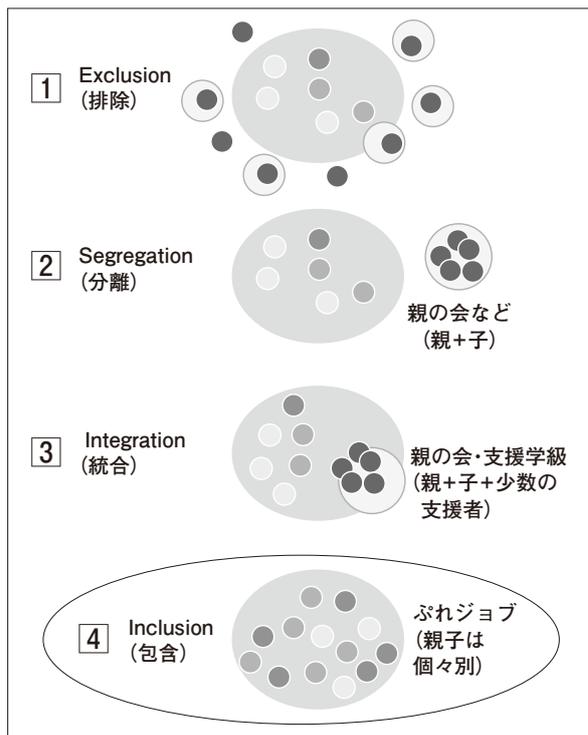
是枝裕和監督の最新作『怪物』(2023)は、違うまま混ざる社会を描いています。子どもも大人も自分でさえ知らない未知の自分とともに生きています。よい絵柄が出るには、時間も空間も必要だなと思います。作品の鑑賞後に『もう一つの教育～伊那小学校春組の記録～』(1991)を再度拝見しました。是枝さんの身体が30年かけて醸している、とてもよい感触や光が残ります。

## ふれジョブ® とはなにか? 商標番号 5194158号

子どもも大人も「個人」があるがままで存在できる成熟社会が育つには、成長とともに囚われる差別や偏見の枠組から毎週1時間だけ離れて静かにわが身を振り返る点検が必要です。生活圏域の多様な属性の住民の参加により、次世代の子どもの社会を考える時間を大人にも保障した、自主的な個人による地道な草の根活動です。 <https://www.purejob.net/>

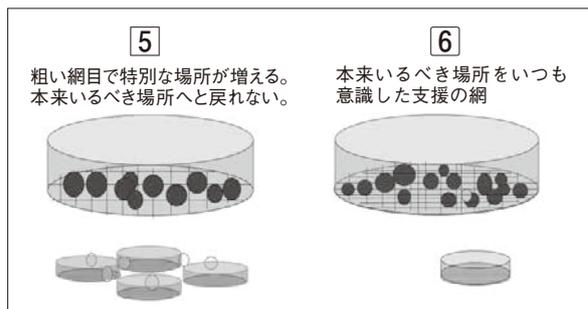


インクルージョン模式図 A (2019.西)



2022年9月9日、日本が国連の障害者権利委員会により「障害者の権利条約」に関する勧告を受け、教育環境の改善を求められたことは国内外に広く知られています。日本の進める特別支援教育すなわちインクルーシブシステムは図Aの「分離・統合」であり、国連から求められている「包含する教育」とは哲学がまったく違うものだと考えています。

インクルージョン模式図 B (2019.西)



模式図Bの⑥ = 模式図Aの④ (包含)

模式図Bの⑤ = 模式図Aの② (分離)・③ (統合)

当法人は、模式図 A の④、模式図 B の⑥を目指し、一度分離された障害のある子どもも、再度障害のない子どもと同じ場で生きることができるよう、理念と具体的方略をセミナー等でお伝えしてまいりました。

しかし、日本社会の流れは依然として痛みを避ける分離の方向に向かい、統合から分離に向かう「顧客としての居場所」がますます増えています。人的・金銭的資源が優先的に投入され、当たり前前に居て学ぶ権利が保障されるべき共通資本としての学校の方が、むしろ力を失い衰弱しているように見えます。同時に弱者支援が職業化し、弱者の固定化が進み、共に生きる場に2度と戻れないように見えます。そして、居場所運営のための資金争奪戦の様相も苛烈になっています。

当法人は、公教育を侵食しない、「隣近所にある住民としての居場所」=ぶれジョブ®を2003年から提唱しています。既存の社会の価値観を問い直し、自らの差別偏見に向き合い、痛みを引き受けて人間的成長を遂げたいと願う大人と共に、インクルージョン社会の足掛かりを作るための実践をおこなっています。

### 模式図 B の⑥のS君の事例

中学3年生のS君は、地元の小学校高学年の頃から不登校状態に入り中学校進学後も登校は不安定でした。

学校と地域の保健機関から依頼を受けて、私たちは週3回、彼の自宅を訪問して給食時間に彼を学校に送迎する支援を開始しました。

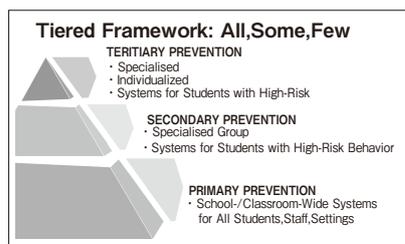
約半年の時間をかけて信頼関係を築き、やがて学校への送迎から地域に創出した居場所に勧誘して、進学に向けた自己学習の支援へとかわりは深化しました。

周囲の大人たちは、話しかけても（大人の側が期待するようには）返答しない彼の進路先として特別支援学校高等部を勧めました。秋になり、特別支援学校の見学に行った際、彼は『ここは僕の学校じゃない』と明確に意思表示をしました。そこで、普通高校見学を経て最終的には彼自身が志望した高校に進みました。

半年後、私たちはご家族から彼がアルバイトを始めたことや、自分で稼いだお金でギターを購入したことをお聞きしました。彼が自分で考え自分で選んだ進路こそ、特別扱いされない、S君にとって居心地が良く自信を失うことも無い最適な場所でした。

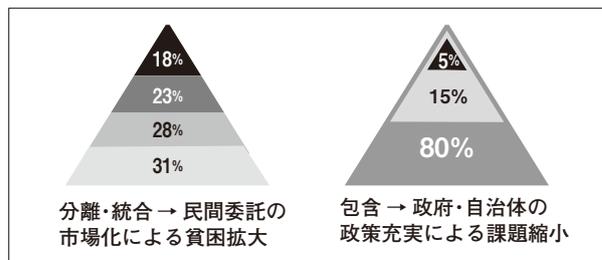
保護者が権威的にかかわらなかったので、S君自身の意見が育つのをゆっくりと待つことができたこと、ぶれジョブ®体験を通して、分断されない社会で生きたい気持ちと自信を育めたことが良かったと思います。

右は私が2006年カンザス大学でPBS（積極的行動支援）のトレーニングを受けた時の資料ですが、分断の支



(カンザス大学PBSトレーニング資料)

援は支援対象者を増やしますので、特別支援学級が全国一多い、現在の長野県も厳しい状況です。カンザス大学で提唱している方法は、すべての子への支援→リスクのある子への支援→慢性的に支援の必要な子への支援の3層支援に加えて、コミュニティ支援により、常に支援の必要な黒の位置に属する子どもは3層を包む4層に重なる支援を受けます。一見直に受ける支援に注目しがちですが、4層に重なる支援を受ける方が「違うまま混ざる」のには適しています。ぶれジョブ®はこの4層にまたがるプログラムです。



どの子どもこぼさない公教育プログラムが広がった理由は、始めの研究対象地域がヒスパニック系住民90%以上、白人との軋轢や経済格差も大きく、麻薬や拳銃の課題が常にある地域で、住民の安全のために「すべての子どもと大人の学び」が迫られて大学のサポートが実現し、その効果により全世界に拡がりました。

現在、不安の強い日本人の特性も相まって分断が進んでいます。自助→共助→公助の順は情報格差と貧困を極まらせ、公教育外に生み出された居場所のインセンティブは高い志のある教師をますます意気消沈させます。すでに公教育から離れたエリート層の子どもたちが、社会的弱者に触れる機会を持たず人格陶冶する学びも得ぬまま、倫理観と品性に欠けたリーダーとなることを憂います。今、改めて多様性に富んだ基礎的学びの場、安全な公教育の回復が求められており、その具体化を側面から支援するぶれジョブ®の理念をもって、競争社会→共創社会の転換に寄与したいと考えています。

一般社団法人ぶれジョブ 代表理事 西幸代  
 〒384-0055 小諸市柏木7-35  
 E-mail : purejob2003@gmail.com